

議案第1号

平成25年度 法人本部 事業報告 (案)

I 平成25年度の状況

平成26年1月9日には建設資金借入金をすべて完済した。さらなる福祉ニーズに応えられるよう安定的で健全な法人経営を継続していく。

認知症対応型通所介護事業（共用型）を6月にスタートしたが利用者の確保が進まず課題となっている。

II 基本方針に対する評価

1. キャリアパス概要図に沿い、一貫した職員の育成を目指す
 - ・キャリアに応じて施設内研修、施設外研修に参加し、資格取得に繋がった。
2. 働きやすく“恕”の心のある職場の風土づくりを行う
 - ・職員満足度アンケート結果から幹部会を中心に取り組み、働きやすい職場づくりを目指した。
3. 健全で安定的な経営と法令を順守した経営を行う
 - ・サービス別検討会（対象：賀茂保育園）及びサービス別検討会事前打ち合わせ会（対象：通所、居宅、訪問看護）を開催した。全部署での開催は出来なかったが、目標達成に向けた協議が出来た。
 - ・定款をはじめとする各種規則・規程の見直しを行い法人ルールの再確認を行った。（就業規則、経理規程、管理規程、運営規程等）

III サービス目標の評価

1. 尊厳あるケアの実践と誇りあるサービスの提供
 - ・前年度コミュニケーション不足による苦情が苦情総数の53%を占めており、今年度は研修を取り入れたことで14%に減少した。
 - ・態度考課平均28.6→29.8（満点：50）、挨拶評価平均3.3→3.4（満点：5）と緩やかではあるが、良い方向となっている。
2. 役職員組織変更に伴う業務分担の検討及び見直し（サービス向上における組織変更）
 - ・介護老人福祉施設において部門毎の組織変更をしたことで、より専門職としてのかかわりを持ち、職種間の連携が出来るようになった。
 - ・業務分担表を再点検し、実態に合わせて見直しを行った。
3. 新規事業に向けた調査研究・市場調査を行う
 - ・新規事業に向けた調査、研修会参加により、谷口病院と協力し有料老人ホーム及び隣接した土地に介護事業設立に向けた活動を開始している。
 - ・6月1日からグループホーム仁の里において、認知症対応型通所介護事業（共用型）を開始した。

IV 能力開発目標の評価

1. 主体性を持ち自立した職員の育成
 - ・幹部研修（大阪リーダー研修、合宿研修）、キャリアに応じ、認知症、医行為研修に参加し、キャリアアップに繋がった。資格取得については別紙のとおり。
 - ・委員会では、役職員が外れることで、職員の意見を提案する場面が増え、活動が増えた。
 - ・研修内容を検討し、鳥取県がん検診推進パートナー企業、健康づくり応援施設、あいサポーター・認知症サポーター企業として認定された。
2. 社会福祉法人会計基準の改正に伴い、新会計基準への円滑な移行に取り組む
 - ・新会計基準対応ソフトの導入が完了し、平成26年度予算より活用した。

V 地域目標の評価

1. 地域に信頼される事業活動（互助）の展開

- ・ボランティアの拡大として、演芸ボランティアの増加、習字クラブ再開などご利用者の楽しみが増えた。
 - ・「論語三代事業」を継続し、参加者より好評を得ている。（参加者数150名）
- ### 2. 地域の防災拠点の一つとなる「福祉施設」として、防災協力等の体制について検討し、当法人が事業運営している地域との協力体制の確立を目指す
- ・今年度も三朝町及び町消防団との意見交換会を実施した。三喜苑・仁の里の状況を把握して頂いた。

VI 業務目標の評価

1. 職員満足度の追求（“^{じよ}憩”の心のある職場の風土づくり）

- ・満足度アンケートを継続し、微少だが満足度の上昇がみられている。
平均満足度 71.9%（前年度平均 70%）
- ・感動作文・笑顔フォトコンテストでは、参加者が増え、ご利用者とのかかわりの中で職員の喜びが増えている。（応募数 55 点）

2. 人材の獲得と定着化

- ・大学、専門学校、高校等の実習等の受け入れを継続し、今年度採用は専門学校卒 1 名、高卒 2 名だった。（前年度実績専門学校卒 2 名、高卒 1 名採用）
- ・離職者 16 名（定年、契約満期 4 名を含む）（前年度 18 名）

3. 健全経営の推進

業務（及び業務分担表）を見直し、職員数と体制の検討及び業務効率化への改善を行う

- ・業務分担について補正予算会議及びサービス別検討会等で協議を行い、実態に合わせた見直し（一部）を行った。

4. 計画的な資金活用と管理

- ・建設資金借入金を完済した。（借入額：412,000,000 円）
- ・法人全体での経常活動収支差額は 5.15% だった。（目標 3%）
- ・各種補助金の活用が出来た。（NHK 歳末助け合い、教育実習、結核検診（利用者））

5. リスクマネジメントの充実

- ・避難訓練 4 回実施（日中想定 2 回 夜間想定 2 回）訓練未経験の職員を中心に訓練を実施している。
- ・BCP（事業継続計画）の研究は進展がなかった。今後は専門委員会の取り組みとして検討していきたい。
- ・労働災害は 4 件発生した（過去最多件数－熱傷 2、打撲 1、切創 1）。各部署で対応策をまとめ再発防止の取り組みを実践している。又、10 月から労働災害（内容）について公表し以降の事故防止に繋げている。

6. 職員の処遇改善

- ・一般事業主行動計画の推進として「ノー残業デー」の取り組みを引き続き呼びかけた。
- ・体調不良による欠勤者の集計と各所属長からの個別面談を推進した。
- ・健康診断では希望者による協会けんぽ（保健指導スタッフ）との個人面談を推進し、健康増進に努めた。
- ・「職員の健康」をテーマに外部講師（協会けんぽ保健指導スタッフ）による健康講演会（職員全体会）を開催した。
- ・鳥取労働局による助言も受けながら「就業規則」「育児・介護休業等に関する規則」「労使協定」を改正し、働きやすい職場環境づくりを推進した。
- ・業務改善ではパソコンの入替えを進め、効率化や働きやすさに繋がった。

平成25年度 役員会等実施状況

日 付	会議名(開催時間)	主 な 議 案
平成25年5月16日	監査会 9:00～	○平成24年度事業の監査
平成25年5月23日	第70回理事会 14:00～ 第60回評議員会 10:00～	○平成24年度 各事業 事業報告及び収支決算について ○平成25年度認知症対応型通所介護事業 事業計画及び予算並びに運営規程について ○空調機器及び玄関ポーチ改修計画について ○運営規程の一部改正について(職員配置) ○定款の一部改正について(報告)
平成25年11月28日	第71回理事会 14:00～ 第61回評議員会 10:00～	○平成25年度 各事業 追加補正予算について ○定款の一部改正について(再提出) ○経理規程の一部改正について(再提出) ○理事・監事・相談役(役員)の重任について ○理事(役員)の交代について ○監事(役員)の交代について ○評議員の交代について ○勤勉手当の支給月数について ○就業規則の一部改正について ○育児・介護休業等に関する規則の一部改正について ○運営規程の一部改正について ○軽費老人ホーム事務費(補助基準額)単価について(報告) ○平成25年度介護保険法第24条に基づく実地指導の結果について(通知) ○平成25年度児童福祉行政指導監査の実施結果について(通知) ○裏山の状況について(報告)
平成26年3月23日	第72回理事会 14:00～ 第62回評議員会 10:00～	○平成25年度 各事業 追加補正予算について ○金銭消費貸借契約の完済について ○経理規程の改正について ○平成26年度 各事業 事業計画及び予算について ○評議員の交代について ○役職員給与規程の一部改正について ○運営規程の一部改正について (介護老人福祉施設(短期入所生活介護事業所(介護予防含む))(ケアハウス) ○新規事業(計画)について (新規事業計画に対する「土地取得」について) ○平成25年度老人福祉施設指導監査の実施結果について(通知)(ケアハウス)
平成26年1月17日	社会福祉法人研修会 13:00～ (役職員向け研修)	○「社会福祉法人に内在するリスクとリスクコントロールについて」 ○「社会福祉法人の意思決定と理事の役割」(行政説明) (役員参加者:2名)

社会福祉法人 福 生 会

平成25年度 研修修了または資格取得者数

H26年3月31日現在

研修名	修了者数	H25年度修了者数	合計	備考
認知症実践者研修	19	5	24	
介護福祉士会 ファーストステップ研修	1	0	1	
認知症リーダー研修	12	3	15	
認知症指導者研修	2	0	2	
リーダー育成講座	12	6	18	
GH管理者研修	4	4	9	有資格者採用1
GH施設長研修	1	0	1	
サービス管理者研修	1	0	1	
介護福祉士	49	4	52	中途退職3、採用2
社会福祉主事	27	2	28	中途退職1
介護支援専門員	15	2	18	有資格者採用1
主任介護支援専門員	3	0	3	
GH計画作成担当者研修	3	2	6	有資格者採用1
特定行為指導者研修	4	1	4	中途退職1
認定特定行為業務従事者 (第2号)	7	4	10	中途退職1

中国地区老人福祉施設研修大会 2事業所3部署参加(ケアハウス、介護老人福祉施設(2部署))

全国老人福祉施設研究会議 2事業所2部署参加(ケアハウス、介護老人福祉施設)

□全国老人福祉施設研究会議

発表テーマ「笑顔とやる気を引き出すために～レクリエーションを見直して～」(ケアハウス)

「息スッキリさわやかに～口腔ケアの効果と職員のスキルアップを目指して～」(介護老人福祉施設)

平成25年度 指定介護老人福祉施設 事業報告 ~~(案)~~

I 平成25年度の状況

入所者の重度化が進み、医療依存度の高い方が増えてきた。施設で看取りをさせていただく方も増えている。そのため職員も専門的な知識を持って対応すること、各職種が連携し、協働することがより重要となってきた。

II 基本方針に対する評価

1. レクリエーションを行い、入所者の満足感を得られた。
2. 資格取得を行い専門的な知識をもって連携を図り、安心を提供できるよう努めた。
3. 各職種が連携し、協働して入所者の対応に努めた。

III サービス目標の評価

1. 個別ケアの充実
 - ・体操や歌、レクリエーションを実施
 - ・故郷訪問 (22名実施)
 - ・外出行事への参加、個別の希望での外出を実施 (選挙・見舞い・墓参り等)
2. 家族との連携・協働の強化
 - ・毎月の家族会行事の開催
 - ・誕生会への参加 (15名の誕生会に参加)
 - ・行事へ一緒に参加 (海岸ドライブ・紅葉狩り)
 - ・年間面会者数 5,858名 (平均16名/日)

IV 能力開発目標の評価

1. 人材育成の強化
 - ・認知症実践者研修修了者2名 (総数4名)
 - ・認知症リーダー研修修了者2名 (総数7名)
 - ・吸引、栄養医行為認定者3名 (総数9名)
 - ・コミュニケーション研修参加
 - ・ターミナルケア(看取り)研修1名(「特養ミーティング」にて伝達研修実施)

V 地域目標の評価

1. 地域、家族への広報活動
 - ・三朝中学校(1行事)、賀茂保育園(3行事)、みささこども園(2行事)と交流した。
 - ・三朝温泉雛めぐりに参加
 - ・介護教室、ボランティアの交流会、在宅介護者の集いに講師として参加(年8名)

VI 業務目標の評価

1. 業務効率化の取り組み
 - ・排泄チェック表の変更をしてパソコン管理を行った。
 - ・毎月の個人のケアプラン評価表を見やすいように1枚にした。
2. 安定的経営
 - ・入院者数は平均2.9人/日であった。
 - ・施設での看取りを希望される方が増えた。(看取り介護加算算定者12名)

<平成25年度入所者状況>

平均要介護度： 3.9
平均入院者数： 2.9人/日
退所者数： 23名(看取り12名)
待機者数： 108名

【参考：平成24年度】

【4.0】
【4.2人/日】
【24名】
【122名】

平成 25 年度 ケアハウス 事業報告 (案)

I 平成 25 年度の状況

ケアハウスは自立した方を対象の施設だが、高齢化に伴い、利用者の心身機能の低下や認知症状の出現が見られるようになっている。それにより、個々の日常生活動作の差も顕著となってきている。その為、異常の早期発見及び、心身機能の活性化を図った。

II 基本方針に対する評価

1. 利用者、家族に信頼される施設サービスを目指す

健康管理について、利用者の体調変化や日頃の様子など気を配り、各関係機関や家族へ報告し連携を図りながら早期疾病対策に努めた。また、リハビリやレクリエーションを継続実施し心身機能の維持を図り生活の安定に努めた。

2. 安定的事業運営を図る

満床を維持することは出来たが入院による外泊が多かった。(入院総日数 168 日/年)

III サービス目標の評価

1. サービスの質の向上

- ・各利用者が充実した生活を送るために必要な事を一緒に考え、地域の方の協力を得て支援し、地域行事への参加、友達と絵手紙交換、我が家でくつろぐ等を実施した。
- ・様々な趣味活動や季節行事を実施し、それぞれが選び参加して頂くことで、生活の中の楽しみが提供できた。
- ・介護老人福祉施設利用者の話し相手やエコキャップ運動等、身近なところで出来る事を自ら進んで活動できる場を提供した。
- ・家族懇談会には 5 名の参加があり、施設からの情報提供と家族との意見交換を行いより信頼関係を深めた。また、家族の協力により畑の環境整備を行い、野菜や花作りを楽しむことができた。

IV 能力開発目標の評価

1. 職員の資質向上

- ・鳥取県現任介護職員等研修支援事業より代替職員 1 名の派遣を受け、施設外研修に積極的に参加し知識の習得に努めた。(施設外 10 研修参加、認知症実践者研修修了者 1 名、介護支援専門員実務研修 1 名)
- ・昨年に引き続き中国地区及び全国研究発表会に出場した。
- ・接遇面では挨拶、言葉遣いの徹底を図った。毎朝のあいさつ標語の復唱、施設内研

修への参加、部署内研修（年5回実施）を通じて、より意識を高めることができた。

V 地域目標の評価

1. 地域の学校や住民と交流を図る

- ・JA 農業祭や三朝町文化祭に出掛け、地域の方から多くの声をかけていただいた。
- ・運動会見学や交流会に参加され、子ども達とふれあいを楽しまれた。
- ・ケアハウスバス遠足（2回）やクラブ活動等を通じて、多くのボランティアの方と顔なじみの関係となり会話も弾み、来苑日を楽しみにして下さる様になった。

VI 業務目標の評価

1. 満床を維持するとともに待機者の確保に努める

- ・満床を維持することができた。
- ・空き状況とならないよう早期入居へ繋げていくため、申込者へ連絡し現状と意向の確認を行った。待機者9名。

◇各月1日現在の利用者実績数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名

◇利用者の状況（要介護度別人数－平成24・25年度）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数 24年度	4名	3名	2名	4名	2名	0名	0名	0名	15名
人数 25年度	5名	1名	3名	4名	2名	0名	0名	0名	15名

議案第4号

平成25年度 指定通所介護事業 事業報告 (案)

I 平成25年度の状況

独居、高齢者世帯、日中の家族不在という生活環境から利用回数が増えてきている。また、退院後自宅での生活に不安がある8名の方が、毎日利用から回数を減らしていくような利用をされた。在宅生活が不安なく継続できるよう、デイサービスでの利用中の様子をお知らせし、生活面やリハビリ面から利用者・家族を支えることができ、4名の方は利用回数を2～3回に減らされている。

II 基本方針に対する評価

1. 在宅生活で困っていること等、身体面、精神面からの支援を行った。
2. 利用者の思いを聞きながら寄り添い対応に努めた。

III サービス目標の評価

1. 個別ケアの充実を図る
 - ・選択できるように活動内容を2つ設け自ら選んでもらうよう声掛けしていった。
 - ・家族に活動内容を知らせ自宅でも取り組みを続けてもらえるよう声掛けを促した。
2. 機能訓練の充実を図る
 - ・利用者、家族に在宅生活で動きについての不安等聞き取り個別リハビリを実施した。
 - ・利用日のみでなく毎日続けられる、自宅でできる簡単な訓練を提供することで機能維持につながった。
3. 利用者、家族との連携を図る
 - ・家族の会を2回実施したが参加者は4名と少なかった。
 - ・入院されたり、都合で利用を中止されている方の訪問を行い、状況確認を行った。

IV 能力開発目標の評価

1. ミニ研修会の開催を行う
 - ・定期的に自分たちの学びたいことや、学んでほしいこと等をミニ研修会で取り組んだ。そのことで振り返りや新たな知識を身に付けることができた。
2. 幹部ミーティングと他職種間の情報交換等の定期的実施
 - ・幹部ミーティングを行うことで情報の共有ができ、幹部が同じ方向に向くことができた。
 - ・他職種との関わりが大きいので情報交換は有意義に実施することが出来、今後に活かすことにつながった。
3. 各種研修への積極的参加
 - ・各研修に声を掛けあい参加した。苑内研修については参加率が多かった。
 - レクリエーションや認知症関連研修へ自己研鑽のために自費で参加した者もあった。

V. 地域目標の評価

1. 地域に発信する

- ・パンフレットの配布

配布が出来た地域もあるが町内全域には配布できなかった。

- ・地域交流会の実施

年間計画（9回）通りに実施できた。定期的参加者が増えてきた。

2. ホームページの活用

- ・3ヵ月毎の確実な更新

職員間でホームページに入れる内容等が決めきれず更新ができなかった。

VI. 業務目標の評価

1. 収入月額550万円以上を目標とする

5月より大規模事業所から通常規模型事業所に変更申請したため、単価がアップして増加した。収入月額目標を630万円に変更、月額636万円で達成できた。

2. 業務の見直しを行う

- ・記録物の見直し

水分、排泄にかかわる記録を個人作成した。配布物等記入するものを個人ケースに転記しわかりやすくした。

- ・整理整頓を行う

定期的に必要な部分の整理整頓を実施した。

デイサービス月別利用人数

(単位：人)

月	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計
4	73	132	168	193	153	95	18	832
5	83	139	157	199	153	84	26	841
6	75	139	161	179	107	52	54	767
7	78	178	176	164	147	41	46	830
8	69	164	164	153	182	44	44	820
9	53	163	154	144	137	48	81	780
10	70	170	149	152	125	70	51	787
11	56	154	191	139	142	81	60	823
12	54	163	209	154	157	66	59	862
1	53	145	172	159	138	45	48	760
2	53	144	150	153	139	32	47	718
3	45	171	162	183	180	38	52	831
合計	762	1,862	2,013	1,972	1,760	696	586	9,651

備考①平成24年度デイサービス利用人数：8,814人/年間

(平成24年度との前年比 837人増)

②大規模事業所：年間月平均が延べ900人以上

平成25年度 指定短期入所生活介護事業 事業報告 (案)

I 平成25年度の状況

- ・ 短期入所についても、医療依存度の高い方が増加しているが出来る限り利用していただけるよう努力した。
- ・ 介護支援専門員との利用調整等、介護老人福祉施設の入院の空きベットも活用しながら、利用ニーズに応えてきた。

II 基本方針に対する評価

1. 重度化対応とし、事前の状況把握と家族との細やかな連携に努めた。
2. 個々のプランに沿い、サービスを提供した。
3. 効率的な受け入れに努めた。

III サービス目標の評価

1. 個別ケアの充実
 - ・ 個々のプランに沿い、評価表を記入したプランが実施できているか確認した。
 - ・ 看取りを希望される方もあり、家族と連携をとりながら希望に沿った対応をした。
2. 家族、居宅ケアマネジャーとの連携の強化
 - ・ サービス担当者会議に毎回参加した。
 - ・ 持参衣類や注意事項、排泄状況等を記入する用紙を作成し、情報交換を行った。
 - ・ 他事業所との交流会（三朝をなんとかしよう会）に参加した。

IV 業務目標の評価

1. 安定的経営
 - ・ 稼働率平均17名
 - ・ 昨年度と比べ、介護老人福祉施設の入院者が少なかった関係から、利用者数が減少した。

短期入所生活介護事業所

	平成25年度	平成24年度	差
要支援1	0	0	0
要支援2	91	33	58
要介護1	420	585	-165
要介護2	713	715	-2
要介護3	2,345	2,265	80
要介護4	1,505	2,102	-597
要介護5	1,142	925	217
合計	6,216	6,625	-409
平均介護	3.3	3.3	0
1日平均人数	17	18.2	-1.2
1人1日収入	10,871	10,857	14

平成25年度 グループホーム 事業報告 (案)

I 平成25年度の状況

三朝町の高齢化率はますます上昇しており、また認知症の方の72%が中度の状態にある。各種多様なサービスを利用しながら生活をされているのが現状で、サービスを使っていない方も多数おられるなか、病気の進行が心配される。

職員は正しい認知症ケアを学び、資質向上に努めるとともに、利用者の尊厳を大切に、住み慣れた地域で生活して頂けるように努力した。

II 基本方針に対する評価

1. 利用者の尊厳を大切に、安全に安心して生活ができる環境を提供した。また、利用者がどのような生活を送りたいかを理解しながら支援していく。
2. 地域交流会を通じて地域との信頼関係も深まってきている。認知症の学習会も行い少しずつ関わりが出来てきている。

III サービス目標の評価

1. 自宅のように穏やかに生活して頂けるように家庭的環境づくりに心掛けた。
家族が行事に参加して頂けるよう声掛けし、たくさん参加して頂けた。
2. 専門的な学びを受け、利用者1人1人に合った対応の仕方では心身の健康に留意した。

IV 能力開発目標の評価

1. 参加したい研修があれば勤務の調整等を行い参加した。認知症に関する資料等は全員に回覧した。資格取得に向けての勉強会も実施し2名が合格した。(介護福祉士)
2. 自立支援のための学習会を実施した。

V 地域目標の評価

1. 運営推進会議を2か月に1回開催した。近隣の方からの差し入れや、散歩時の声掛け等での関わりが深まってきた。
2. 地域交流会を開催し利用者も参加、また奉仕作業等にも参加し地域の方との交流に心掛けた。

VI 業務目標の評価

1. 働きやすい環境整備を目指す
 - ・何でも言い合える環境づくりと笑顔に心掛けた。
2. 安定的経営を目指す
 - ・入院が年間61日あり常時満室とはならなかった。(前年度58日)
 - ・買い物や光熱費等声を掛けあい節約に心掛けた。

平成25年度 賀茂保育園 事業報告 (案)

I 平成25年度の状況

平成25年度から5年間、再度、三朝町より管理委託を受けての初年度ということ踏まえ、より一層信頼を高めるため、また、幼児期の保育・教育が生涯に亘る人格形成の基礎を培うことの重要性を認識し、保育内容の見直し・充実を図るため、業務の改善を図り、保育の年間指導計画を策定し、実践を深めた1年であった。

保護者・地域住民・関係機関の方々からは、好意的に理解と協力を得ることができ、円滑な園運営に大きく寄与していただいた。また、多種多様な交流を図ることができ、豊かな人間形成にも大きな働きかけにつながった。

II 基本方針に対する評価

- 1 国の法令・基準・指針及び県や町の条例等に基づき、公平公正に保育を行うと共に、子どもの最善の幸福を願い、家庭・地域社会との一体化を図ることができた。
- 2 園児が深い愛情と信頼の中で、創造性を育み、探究心を高め、伸びやかに楽しく主体的に成長することができるよう、人的・物的環境を整えることができた。

III サービス目標の評価

新規の事業はなく、昨年度の保育内容を継続する形となった。それぞれの事業での利用実績は次の通りである。

(1) 通常保育事業

総利用者数 1,318人(昨年度は1,374人、一昨年度は1,414人)

月別初日在籍園児数 単位 人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
104	105	106	109	110	110	112	112	112	112	113	113

(2) 特別保育事業

① 一時保育事業 総利用者数 56人(昨年度は49人、一昨年度は251人)

月別利用者人数 単位 人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	1	5	5	8	2	3	2	6	3	1	19

② 障害児保育事業

軽度障がい児4人在籍。2人ずつ2クラス在籍したため、加配保育士2人を配置した。

③ 乳児保育事業 未満児(0歳児)9人の保育を実施した。

④ 延長保育事業(自主事業) 総利用者数 80人(昨年度は88人、一昨年度は212人)

総稼働日数 63日(昨年度は55日、一昨年度は157日)

月別利用者人数 単位 人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6	4	3	5	13	10	10	8	6	6	2	7

IV 能力開発目標の評価

園長研修会・主任保育士研修会・保育士研修会・公開保育研究会・食育講演会・人権教育研究会などに積極的に参加し、園運営の向上及び保育技術や保育指導技術の習得に努めることができた。
(年間延べ122人参加)

V 地域目標「家庭や地域社会との連携を十分に図る」の評価

- ・町内他園との交流により、園長会・三朝町保育連絡協議会・調理員会への参加、食育・ノーテレビデーの推進など専門的に研究を深めることができた。(園長会・調理員会は毎月1回実施、他の会合は必要に応じ、年間数回開催した。)
- ・各地域協議会、老人クラブ、ボランティア団体との連携も図れた。(年間延べ16回実施)
- ・保護者研修会を開催し保護者の意識を高めることができた。

VI 業務目標の評価

目標(1) 「人的・物的環境を整え、安全で信頼に満ちた運営を目指す。」

人的・物的環境を整え、安全と信頼に裏打ちされた運営が推進できた。

目標(2) 「思いやりの心を持ち、支え合い・助け合う人づくり、職場づくりに徹する。」

理念や基本方針に基づき職員教育の徹底を図ることにより、知識や技能の習得のみでなく、相互に協力し合う体制づくりに努めたため、保育理念や目指す子ども像実現へ向けての一致結束した取り組みができた。

目標(3) 「経営的に収支のバランスのとれた安定的な経営を目指す。」

経営面では受入れ定員が100人のまま変わらず、年間利用人数がやや減ったことなどにより、安定的な経営とはならず、課題も残っている。(昨年度と比べて、運営費が約350万円減収となった。)

議案第8号

平成25年度 認知症対応型通所介護事業 事業報告 ~~(案)~~

I 平成25年度の状況

三朝町の高齢化率はますます上昇しており、また認知症の方で中度の状態の方が72%で、各種のサービスを利用しながら生活しておられるのが現状である。サービスを利用されていない方も多数おられる為、病気進行が心配される。住み慣れた地域で安全、安心して生活して頂けるように努めた。

また職員は各種研修に参加し、認知症の学習を深めた。

II 基本方針に対する評価

1. 利用者の尊厳を大切にし、安全に安心して生活ができる環境を提供して個々の思いをお聞きし、支援した。
2. 家族に利用者の利用時の様子を報告し、連携を深めた。

III サービス目標の評価

1. グループホーム利用者と集うことで馴染みの関係づくりに心掛けた。
2. 自宅での生活を基本とし状況把握を行い、地域に出かけたり趣味を生かした活動等で楽しんで頂いた。

IV 能力開発目標の評価

グループホームと同じ

V 地域目標の評価

1. 地域に出かけて行き、利用者の顔を覚えてもらうよう努めた。
2. パンフレットを配布し事業について知って頂くように心掛けた。

VI 業務目標の評価

1. 1日3名の利用者確保を目標にしていたが、延べ月8名の利用者のみだった。
2. グループホームとデイサービスの職員と連携しながら対応することができた。

平成25年度 指定居宅介護支援事業 事業報告 ~~(案)~~

I 平成25年度の状況

平成24年度介護報酬改定で、居宅介護支援においては、自立支援型のケアマネジメント（介護計画によりサービスを利用）を推進する観点から、質の高い事業所について評価を行うことと、医療との連携を強化する観点から、加算の見直しがあった。現在、次回の介護報酬改定に向け、厚生労働省でケアマネジメントと介護支援専門員のあり方について検討されている。町民の利用者が必ず三朝町内の居宅介護支援事業所を選択するのではなく、介護支援専門員や事業所の資質を見て選択していく事もある。当事業所では、三朝町内の利用者に対し、町内事業所ならこそのつながりができるように地域との連携を強化する取り組みを行った。

II 基本方針に対する評価

1. 利用者に対して自立支援型のケアマネジメントができるように努めた。
2. 在宅の高齢者を地域で支えられるように、地域機関等との連携を深める取り組みを行った。
3. 利用者の確保を図りつつ、業務の効率化を進められるよう努めた。

III サービス目標の評価

1. 利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように、業務の見直しや取り組みを進めた。
 - ・事例検討会や各種研修会や意見交換会を通し、気づきや新たな選択肢を得て、ケアプラン作成につなげた。生きがいにつながるケアプランに近付いた。

IV 能力開発目標の評価

1. 自立支援型のケアマネジメントを学ぶことの一環として研究発表に取り組んだ。
 - ・「家族支援」をテーマに取り組んだ。家族視点で利用者を見ることができた。

V 地域目標の評価

1. サービスを総合的に提供できるよう、地域機関等との連携を深めた。
 - ・医療機関とは情報交換を丁寧に行い、利用者支援に役立てた。
 - ・民生委員への挨拶回りを実施。まずは独居の方が多き地域を優先して回り、民生委員・地域との連携ができてきている利用者が増えてきた。

VI 業務目標の評価

1. 年度末には介護報酬請求利用者を要介護は80件、介護予防プランは30件を目指した。
 - ・実際には施設入所、入院の利用者が多かったこともあり、要介護利用者は平均69.4件、要支援利用者は22.3件にとどまった。民生委員の方への挨拶回りを実施し、地域への連携を働き掛け、関係作りの第一歩を踏み出した。
2. 時間とコストを意識した業務を心がけたが、目に見える残業時間の減少はなかった。
 - ・適切な業務を実施することはできたが、改善や残業時間の減少は具体的な成果にならなかった。

平成25年度 訪問看護ステーション 事業報告 ~~(案)~~

I 平成25年度の状況

平成25年度24時間対応体制をとれず収入が激減した。また、訪問看護の利用者も事業縮小に伴い、前年度に比較し20人の減少が見られたが、現在改善しつつある。国は地域包括ケアシステムを推進しており訪問看護利用者は今後増加すると思われる。

平成26年度には24時間対応体制が再開できるよう職員体制を整えていきたい。

II 基本方針に対する評価

1. 在宅療養が継続できるように重症化予防とリスク管理をし、“安心”を提供する。
 - ・重症化予防ができるよう異常の早期発見に努めた。主治医、ケアマネと連携をとり、早期通院、又入院に至る重症化防止に努めた。家族より、「通院を勧めてくれて助かった」との言葉があった。
 - ・24時間対応体制をとっていないので、早めに主治医・ケアマネジャーに連絡するよう心掛けた。
2. きめ細やかな対応と質の高い看護を提供する。
 - ・苦情はなく、アンケートからはほぼ良い評価をいただいていることから満足していただける看護が提供できていたと考える。利用者家族にも気を配り体調管理の声掛けなど行った。
3. 地域の関連機関と連携を密に選ばれるステーションを目指す。
 - ・新任のケアマネジャー、地域連携室、医師からの依頼も増えている。

III サービス目標の評価

1. 専門性を高め、質の高い看護を提供するために、マニュアルの見直しと追加作成をし、チームで統一した看護を提供する。
 - ・スタッフの異動により今年度は現行のマニュアルで統一したケアを行ったが、今後全体的にマニュアルの見直しが必要である。
2. ケース検討会を通し、提供している看護の振り返りをし、利用者中心の看護を提供する。
 - ・ケース検討会、日々の報告を通し提供している看護の振り返りをして利用者中心の看護を提供するよう努力した。
3. 新規訪問看護の導入（小児、重度心身障害者等）へ向けて研修し、サービス提供ができるようにする。
 - ・新規訪問看護の導入（小児、重度心身障害者等）には対象利用者がなく、結果には結びつかなかった。

IV 能力開発目標の評価

1. ターミナル利用者に対して在宅緩和ケアをチームで提供できる。(書式の作成)
 - ・書式の作成について今年度は実施できず。新規のスタッフの増加により、再度研修に努めるとともに書式を作成していきたい。
2. 得意分野の向上及び最新の看護を習得し実践できるよう研修に参加する。
 - ・得意分野の向上、最新の看護を習得し実践できるよう研修に参加できた。
3. 訪問看護師としての資質向上(接遇等を含む)を目指し、自己研鑽に努める。
 - ・自己研鑽に努め、研修参加、自己学習を実施しているが、繰り返しての学習が必要と考える。また、研修内容をステーションで報告し共有することを継続する必要がある。

V 地域目標の評価

1. 行政機関、福祉サービス機関、医療機関と連携し、信頼されるステーションを目指す。
 - ・行政機関、福祉サービス機関、医療機関等と普段からの関わりを重視し連携できた。今後も信頼されるステーションを目指す。
2. アンケートを継続実施し、在宅療養者に望まれるステーションを目指す。
 - ・アンケートを実施した。回答には苦情等はなくほぼ良い評価をいただいている。今後も利用者・家族の思いを聴きながら望まれるステーションを目指す。
3. 地域及び関連機関への講演等を受諾し、地域の看護体制の強化をする。
 - ・地域交流会(仁の里主催)でミニ講演会を行った。(1回)

VI 業務目標の評価

看護師6人で算定していたが事業縮小となり実質4人で業務にあたったため、利用者数、収入が大幅減となった。

1. 利用者数目標 60人→実績 30.1人
2. 一ヵ月利用回数目標 400件→実績 182人
3. 一ヵ月の収益 目標330万円→実績 151万円
燃料費の削減に繋がるよう、訪問ルートを工夫した。